

平成9年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成9年11月17日

高知県病害虫防除所長

病害虫名黄化えそ症(TSWV)



1. 病害虫名黄化えそ症(TSWV)

2. 発生物

キク、ピーマン、シシトウガラシ、トマト、ソリダスター、アスター

3. 病原

(1)病原名トマト黄化えそウイルス(Tomato spotted wilt virus: TSWV)

(2)ウイルスの形態被膜を持つ、ほぼ球状の粒子(直径約80nm)

(3)感染植物キク科、ナス科、マメ科、アカザ科、リンドウ科、ゴマ科等広範囲に及ぶ

4. 特殊報の内容

キク、ピーマン、シシトウガラシなどで本県初発生を確認

5. 初発生の確認された時期

キク:平成9年2月

ピーマン、シシトウガラシ:平成9年10月

トマト:平成9年2月

ソリダスター:平成9年4月

アスター:平成9年7月

6. 発生場所

キク:吾川郡春野町、土佐市

ピーマン、シシトウガラシ:安芸市、吾川郡春野町

トマト:吾川郡春野町

ソリダスター、アスター:土佐市

7. 発生確認の経過と発生状況

(1)キク

1)平成9年2月、春野町の施設栽培のキクに、えそを伴う生育不良株が発生し、平成9年3月には6戸、約1haで確認された。

2)平成9年7月に、春野町、土佐市の露地栽培のキクに、約2haのほ場で発生が確認された。

3)発病株を抗血清によりELISA法で検定したところ、TSWVの感染が確認された。

(2)ピーマン、シントウガラシ

1)平成9年10月、安芸市の施設ピーマン、シントウガラシに、えそを伴う生育不良株が発生した。

2)発病株を抗血清によりELISA法で検定したところ、TSWVの感染が確認された。

3)平成9年11月には、5戸、約100aで発生を確認した。

(3)トマト(平成9年2月)、ソリダスター(平成9年4月)、アスター(平成9年7月)でも発生が確認された。

(4)なお、平成8年12月26日付け平成8年度病害虫発生予察特殊報第3号で、病原ウイルス(TSWV)の本県における初発生の確認を報告している(発生作物:スターチス)。

8. 病徴

(1)キク

葉に退緑とえそ輪紋を生じ、その後えそ斑へと進行する。茎にはえそ条斑を生じ、えそ条斑の部分から髓部が褐変したり、茎の内部が空洞化する。そのため茎が折れやすく、花がしおれ、やがて枯死する。発病株は健全株に比べると、草丈が低くなる。病徴がはっきりするのは、開花期前後である。発生園で二度切り栽培すると多発する。

(2)ピーマン、シントウガラシ

生長点付近の葉に軽いモザイクや奇形を生じ、やがて生長点のみが枯死する。また成葉には、不鮮明な黄色輪紋を生じる。茎の先端部や地際部付近には、褐色のえそを生じ、維管束も褐変する。果実にも軽いモザイクや奇形を生じ、果面や果梗に褐色のえそを生じる。激発すると、全葉が萎ちようし、株が枯死する。

9. 伝搬方法

(1)ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマなどのアザミウマ類によって伝搬される。幼虫のみがウイルスを吸汁獲得し、成虫によってウイルスが永続伝搬される。経卵伝染はしない。

特にミカンキイロアザミウマは他の種に比べて媒介能力が高いと言われている。

(2)試験的な汁液接種は可能であるが、ウイルスが不安定であるため管理作業による伝染の可能性は少なく、アザミウマ類による伝搬が主と考えられ、土壌伝染、種子伝染はしない。

10. 防除対策

(1)発病株は早期発見、除去に努め、伝染源をなくす。

(2)媒介虫であるアザミウマ類の徹底防除を行う。

(3)アザミウマ類の防除に当たっては、薬剤防除だけでなく、ハウスサイドや天窓などの寒冷紗被覆、紫外線カットフィルムの利用、苗による本ぼへの持ち込み防止、栽培終了時の蒸し込み処理、ほ場及び周辺の除草など、耕種的・物理的な防除対策を積極的に取り入れる。

(4)アザミウマ類やTSWVの寄主範囲は極めて広いので、ハウス内に栽培に関係のない野菜や花きを持ち込まない。